

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3791600129		
法人名	医療法人社団 ひかり会		
事業所名	グループホーム愛寿苑		
所在地	香川県仲多度郡多度津町青木148番地		
自己評価作成日	令和 5 年 8 月 28 日	評価結果市町村受理日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くには母体である医療機関があり、常日頃から関係を密にして医療面でも安心できる環境にあります。事業所の名前からとったあいじゅを理念として、暖かい環境の中で いきいきと 自分らしく ゆったりと を掲げ入居者に寄り添い、人格を尊重した支援ができるように努力しております。誕生日会やおやつクッキング、季節行事を取り入れ、入居者が楽しい生活が送れるようにしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3791600129-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3791600129-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 9 月 7 日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

災害対策を見直し、利用者の情報がわかる名札の作成やガスコンロ、紙皿、ビニール袋などの日用品の備蓄を新たに増やした。さらに、効率的に持ち出せる対策を検討している最中である。地域との交流では、「おもいやりSOSネットワーク」を開催し、駐在所、公民館、町役場の方たちと一緒に認知症のケアや対策について聞く耳を持って、地域連携を深めている。居室の扉は日中は開けていて、常に新鮮な空気の入れ替えとなり、駐車場や病院のリハビリガーデンへの散歩も外気に触れる場作りもしている。Youtubeで、北海道の自然豊かな映像を見て頂いた時に、外出した気分が味わえ、散歩に導いているのも工夫の一つである。レクリエーションは、毎日担当職員が入れ替わりで発案して利用者に飽きが来ない工夫の体操(ラジオ体操、あんしん体操、座ってできる高齢者体操、棒体操、タオル体操)、脳リハビリ(なぞなぞ、ことわざ、熟語、香川の方言)など利用者を家族の一員として、溶け込む工夫もしている。今後、うどん打ちや盆踊り、合同レクも検討し更に職員間で、盛り上がっている。職員の聞き取りで、「寄り添った介護ができています」や「利用者一人一人の様子がよく見えて、その人に合わせた対応が心にゆとりを呼んでいる。」と答えてくれ、利用者からの「ありがとう」の言葉がやる気に繋がり、励みとなった。家族へも連絡をこまめにとることも、施設全体に安心感が生まれ、些細なことでも地域の助言を真摯に受け止めた成果が、職員の共有から始まっているように感じる。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が常に目にできるように玄関と事務所に掲示し、毎朝の朝礼で復唱して共有、日々の実践に向けている。	朝礼時には、玄関、事務所に掲示している理念と方針、入居者の約束事や権利、スタッフの間での約束事を唱和することで職員に浸透している。全部では量が多いので1日1項目に限定している。今年度のスローガンも唱和し、「声掛け・協力・実行」できるケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染対策の為交流は困難であるが、地域の方々の散歩時は挨拶を行ってつながりを持てるようにしている。パンフレットを配り、苑の説明等を行い、理解していただけるようにしている。敬老会等の行事の際には病院職員の協力を得、雰囲気のある場を設ける等考え、普段とは違う刺激を与え、喜びを感じて頂けるよう努力している。	町開催の「おもいやりSOSネットワーク」には、駐在所、公民館、町役場の方たちと一緒に実施している。認知症のケアや対策についての連携を深めることができた。近隣の他のグループホームにも自社で作成したパンフレットを持参した。散歩や草抜きをしている際に、近隣の方や通学の小学生と挨拶を交わす関係もできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染対策の為交流は困難であるが、町職員からの情報を得よう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催している。コロナ感染対策の為、地域の方々の参加はないが、医療機関、町、入居者様に参加していただき、現状の報告や意見交換を行っている。	会議は対面で実施している。病院院長、事務長、高齢者保険課、包括支援センター、職員、利用者が参加している。入居者現状報告、介護度情報、コロナ対策、行事報告、健康管理について話し合った。町役場の方から熱中症対策として水分補給をしようとの意見も聞いた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談事があれば連絡して助言をいただき、協力をお願いしている。	窓口は施設長となっている。認定調査票、入退去者状況や運営推進会議の案内を行っている。月に1回は、役場に直接出向くことで、face to faceの関係が継続されている。町の情報が載っている広報誌を持ち帰ったら、利用者の方に喜ばれた。研修の案内、コロナ対策などの情報はFAXでやり取りをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを作成し、身体拘束委員会を立ち上げ、全職員に周知、苑内での勉強会を2ヶ月に一度開催して理解を深めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内研修やカンファレンスにて虐待についての話し合いを行い、職員間での日々の言動に気を付け虐待防止に努めている。職員は自身の健康状態に気をつけたり、ストレスを感じる事など、職場で話し合いを行い、平常心を保ち職務に取り組めるよう、フォローしたり努力をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内にも成年後見制度を利用されている入居者様もおり、職員も学ぶ機会が持て理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居時に本人様、家族様に書面にて説明を行い、十分に納得して頂いたうえで契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃から電話での連絡をとり、意見や要望を聞き、担当者会議時にも相談事や要望を聞き、運営に反映している。	窓越し面会や電話、手紙のやり取りも継続している。面会や担当者会議に来た際に、意見を確認し、1ヶ月に1回、担当者から家族への手紙を郵送して、2ヶ月に1回、愛寿苑通信を発行して施設の様子がわかるとの好評の意見を頂いている。果物が好きな利用者には、家族からイチジクの差し入れがあった。	写真や手紙のやり取りを増やしてみたいかがでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のカンファレンス等で職員の意見、業務における問題点を聞き、協議し、日々の支援に反映させている。	朝礼や申し送りノートを活用していて、定期的に10分間のミニカンファレンスも行い、利用者の様子、研修や委員会、コロナ対策についての話し合いができた。職員からの意見は、各ユニットリーダーがまとめ、施設長に声が届くようになっている。段取り表の記入を細かくすることで、職員の動きをより把握しやすくしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に会議を行い、管理者を通じて職員の勤務状況や実情の把握に努め、向上心を持って働ける環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な会議を開き、現状の把握や内部研修の実際、外部研修への参加、また、オンラインの研修にも参加できるよう職員のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前から町での多職種の会議にも参加している。現在はオンラインにて参加させていただき、サービスの質の向上に向けている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問し面談を行い、本人様、家族様、介護支援専門員、相談員からの情報を受け、面談をさせていただき、心身及び生活歴を把握している。本人様の思いや不安を傾聴し安心して生活が送れる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時にご家族の不安や思いなどを傾聴し、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談の結果を踏まえ、必要な支援を見極め、柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する一員として本人様のできる家事を日課に取り入れて一緒に行っている。入居者様から教わる姿勢も大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染対策中で面会制限中であるが、必要に応じて電話にて近況報告をしたり、窓越しやオンライン面会をして家族様と繋がりを持っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症対策で外出制限中であり今後の状況に応じ、オンラインでの面会も行っていく。また、ハガキや手紙の便りもあり大事にされている。	ガラス越し面会に来る家族もいて、顔が見れると安心するとの声を頂いた。他科への受診の際には、家族が連れて行くので会う機会がある。リビングの席が馴染みの場所となり、利用者同士で毎日会話が弾んでいる。職員が出勤したら、挨拶を交わし、帰る際には、「もう帰るん？明日は来るの？」と声を掛けられるくらい馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が共同で作業を行う事でのなじみの関係が築けるようにしている。また、自らコミュニケーションをとる事が難しい入居者様に対しては会話の工夫をしたり余暇活動に職員が間に入り関わりが持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても顔を見せていただいたり、連絡をして話ができるような関係作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりに対し、生活歴を把握してアセスメントを行い、本人様の希望に沿った支援を個別に実施している。	入居時に思いや意向を確認している。入居時に不安があった方に対しては、利用者の言葉を傾聴することで安心感が与えられている。同じことでも何回も繰り返し伝えることで、納得して頂いている。本人の思いを尊重して、体操をしたり、部屋で休んだり自分のペースで過ごすことが出来ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様や家族様から情報収集をして日々の生活に反映できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り記録等で職員の情報共有を行い、心身の状態を把握している。毎日の朝礼でその日のリーダーが利用者様の体調変化、特変、医者からの指示等の報告を申し送りすることで職員は両ユニットの利用者に関する情報を把握・共有することで対応できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミニカンファレンスで職員の意見を聞き、家族様にも要望等を確認したうえで介護計画を作成できるよう努めている。	新規利用者は3ヶ月でプランの更新を行い、以降は半年もしくは1年で更新している。担当職員に気づいたことがあれば、ケアマネジャーにその場で報告している。夜勤の様子も職員間で共有していて、ケアプランに活かしている。食事が食べられなくなった方への介助方法や医療連携を行ったら、回復するに至った。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状況の変化等についてカルテや申し送りノートに記入し、職員間での情報を共有している。必要に応じて介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や家族様のニーズに沿って柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染症対策で制限はあるが、常日頃から地域の資源を把握しておき、今後状況を見ながら対応していく。現在は歯科と散髪の実施を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様及び家族様の希望を確認しているが、協力医療機関に変更することが多くなっている。定期受診の付き添いや特変があれば電話で指示をもらっている。	かかりつけ医は、入居時に母体の協力医に全員が転医している。ドクターとの関係も良好で、利用者は会うと笑顔になるくらい関係性が築けている。他科受診へは、基本家族が連れて行き、その際に意見交換ができていく。歯科診療は、月1回の往診があり、治療が必要な場合には、家族が連れて行く。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師や病院の看護師の訪問時に入居者様の日々の健康状態について適切な指示をもらい、受診の調整をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が入院した際は必要な情報を医療機関に提供し、医療機関職員と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方を契約時に本人様・家族様に説明を行い、重度化した入居者様に対しては、家族様、主治医を交えて話をし今後のケアの方向性を決めている。	母体の病院が隣接しているため、ターミナルは施設では実施していない。入所時に、「重要事項説明書」にて同意を得ている。終末期に差し掛かった際には、家族やドクターと意見を交換している。直近では、ご飯の呑み込みが悪くなった方が入院したが、回復して今ではすっかり施設で元気に過ごしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成し、定期的な研修で新しい職員にも実践力が身につくように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を実施しているが、地震、水害等の災害訓練実施している。	年に2回、火災・地震訓練を昼夜想定で実施している。防災士から、消火器やスプリンクラーの使い方、通報の仕方を学び、利用者も一緒に避難することができた。本人の情報がわかる名札、防災頭巾の作成やカスコンロ、ガスボンベも購入し、備蓄は倉庫に、水、衛生用品を3日分保管するようにした。	もう一度、備蓄について見直し、計画してみたいかがでしょうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修を行い、人格の尊重やプライバシーを損ねない言葉かけや対応について話し合いをしている。	呼称は苗字に「さん」を付けて呼んでいる。接遇は新人研修や朝礼、10分間のカンファレンスにて触れている。利用者を尊重し傾聴することを大切にしている。衣類が汚れた際には、素早く片付け、他の利用者には気づかれない配慮をしながら誘導を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自分の思っていること、言いたいことを言えるような環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は決めているが入居者様の思いや意見を尊重し、個々のペースに合わせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望を聞き、衣類等の購入を家族様にお願いしたり、散髪は2ヶ月に一度理容師に来てもらって個々の好みで整えている。また、爪切りや髭剃り等対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人個人の状態に合わせて盛り付けのできる方、下膳や片付けができる方、それぞれの能力を活かして関わってもらえるようにしている。	食事は3食外注だが、ご飯とお味噌汁は施設で調理している。食事の雰囲気も穏やかで、職員は適度に声掛けを行い、見守り体制に努めていた。利用者からは「美味しい」ですの一言が聞け、満足度は高い。月1回のおやつ作りの日を設け、クリームソーダ風ゼリーとかき氷を作ったら喜んで頂けた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事や水分の摂取量を記録している。主治医とも連携し、食事形態の工夫、量の調整を行っている。摂取状況に応じて栄養補助食品、飲料の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前の口腔体操、毎食後口腔ケアを声かけや介助にて行い、清潔保持に努めている。また、毎月訪問歯科で口腔ケアの指導、義歯調整等を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認しながら、声かけ、見守りをして排泄の失敗やオムツの使用を減らしている。一人一人の排泄パターンを把握しトイレ誘導をしている。	トイレが4ヶ所設置されていて、居室からも行きやすくなっている。排泄チェック表と合わせて水分チェックも行っている。布パンツで過ごされている方が約半数おられる。ポータブルトイレを使用している人はおらず、全員がトイレで排泄することができている。夜間は安眠に考慮してオムツの方も数名おられる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動により便秘改善に努め、必要に応じて受診し、主治医の指示を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時には本人様の承諾を得てから入浴に行かれている。拒否がある時は時間をずらすことや職員が交代して落ち着いて入浴ができるようにしている。	週2回以上の入浴機会を設けている。浴槽のお湯をかけ流しにしていることで、清潔な環境を維持している。入浴を拒否される方へは、「体重測りに行きましょう」など言葉をかけて誘導している。無理強いはずらずに、人や日時を変えて声掛けが成果を生んでいる。ゆず湯の代わりとして、ケアマネジャの発案で、みかんの皮を干したものをお湯に浸けたら、大好評だった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠してもらえるように日中の活動や生活リズムを整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様個人の症状や服薬内容を職員が把握できるようにしている。服薬時には日付や名前を読んで再度確認して誤薬が無いようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割をしていただき達成したことへの感謝の声掛けをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対策の為、外出は制限中で苑内での散歩になっているが、映像や本等を観て今後の楽しみにしている。	隣接する病院のリハビリガーデンへの散歩は可能で、花見をしたり、季節の花や果物を楽しんだりしている。レクリエーション活動の後、廊下を3往復したり、歩行困難がある方へは、職員が補助をして屈伸や手足体操をしている。施設内での棒体操や、ラジオ体操など様々なレクリエーション活動を工夫して行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様が遠方であったり、成年後見人を利用されている方は少額事業所で預かり、必要な物があれば自由に購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月1回家族様への手紙で日頃の様子をお知らせしたり、作品を送付している。本人様の希望を聞き、本人様の携帯電話で連絡したり、苑の電話をかけたりし対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のホールにはソファを配置し、個々でゆったりとくつろげるよう配慮している。ホール内には季節に応じた創作活動として入居者様の作品を掲示している。	四季ごとに壁紙を変えて、季節折々を感じられるようにしている。利用者が作成した塗り絵や、折り紙のトンボ、コスモスの花を折ったものが堂々と飾られていた。ラジオ体操、座ってできる高齢者体操、タオル体操、棒体操などをリビングで行っている姿を評価員は目の当たりにした。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファでテレビを観たり話をしながら創作活動ができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたテーブル、机、家族様の写真等、馴染みのある物を居室に置いていただき、家庭的なイメージの中で過ごしてもらえるようにしている。また、居室でゆっくりとテレビを観られるように対応もしている。	備え付けはベッド、エアコン、クローゼット、洗面所。テレビ、本、足マッサージ器等を持ち込むことで、好きなことをして過ごすことができている。家族の写真や誕生日カード、相撲の結果を記入した表を飾っている部屋もあり、自分らしい居室となっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	苑内はバリアフリーであり混乱のない環境作りに努めている。個々の状態に応じて声かけを行い不安なく過ごせるように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3791600129		
法人名	医療法人社団 ひかり会		
事業所名	グループホーム愛寿苑		
所在地	香川県仲多度郡多度津町青木148番地		
自己評価作成日	令和 5 年 8 月 28 日	評価結果市町村受理日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くには母体である医療機関があり、常日頃から関係を密にして医療面でも安心できる環境にあります。事業所の名前からとったあいじゅを理念として、暖かい環境の中で いきいきと 自分らしく ゆったりと を掲げ入居者に寄り添い、人格を尊重した支援ができるように努力しております。誕生日会やおやつクッキング、季節行事を取り入れ、入居者が楽しい生活が送れるようにしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3791600129-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3791600129-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 9 月 7 日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

災害対策を見直し、利用者の情報がわかる名札の作成やガスコンロ、紙皿、ビニール袋などの日用品の備蓄を新たに増やした。さらに、効率的に持ち出せる対策を検討している最中である。地域との交流では、「おもいやりSOSネットワーク」を開催し、駐在所、公民館、町役場の方たちと一緒に認知症のケアや対策について聞く耳を持って、地域連携を深めている。居室の扉は日中は開けていて、常に新鮮な空気の入れ替えとなり、駐車場や病院のリハビリガーデンへの散歩も外気に触れる場作りもしている。Youtubeで、北海道の自然豊かな映像を見て頂いた時に、外出した気分が味わえ、散歩に導いているのも工夫の一つである。レクリエーションは、毎日担当職員が入れ替わりで発案して利用者に飽きが来ない工夫の体操(ラジオ体操、あんしん体操、座ってできる高齢者体操、棒体操、タオル体操)、脳リハビリ(なぞなぞ、ことわざ、熟語、香川の方言)など利用者を家族の一員として、溶け込む工夫もしている。今後、うどん打ちや盆踊り、合同レクも検討し更に職員間で、盛り上がっている。職員の聞き取りで、「寄り添った介護ができています」や「利用者一人一人の様子がよく見えて、その人に合わせた対応が心にゆとりを呼んでいる。」と答えてくれ、利用者からの「ありがとう」の言葉がやる気に繋がり、励みとなった。家族へも連絡をこまめにとることも、施設全体に安心感が生まれ、些細なことでも地域の助言を真摯に受け止めた成果が、職員の共有から始まっているように感じる。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が常に目にできるように玄関と事務所に掲示し、毎朝の朝礼で復唱して共有、日々の実践に向けている。	朝礼時には、玄関、事務所に掲示している理念と方針、入居者の約束事や権利、スタッフの間での約束事を唱和することで職員に浸透している。全部では量が多いので1日1項目に限定している。今年度のスローガンも唱和し、「声掛け・協力・実行」できるケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染対策の為交流は困難であるが、地域の方々の散歩時は挨拶を行ってつながりを持てるようにしている。パンフレットを配り、苑の説明等を行い、理解していただけるようにしている。敬老会等の行事の際には病院職員の協力を得、雰囲気のある場を設ける等考え、普段とは違う刺激を与え、喜びを感じて頂けるよう努力している。	町開催の「おもいやりSOSネットワーク」には、駐在所、公民館、町役場の方たちと一緒に実施している。認知症のケアや対策についての連携を深めることができた。近隣の他のグループホームにも自社で作成したパンフレットを持参した。散歩や草抜きをしている際に、近隣の方や通学の小学生と挨拶を交わす関係もできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染対策の為交流は困難であるが、町職員からの情報を得よう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催している。コロナ感染対策の為、地域の方々の参加はないが、医療機関、町、入居者様に参加していただき、現状の報告や意見交換を行っている。	会議は対面で実施している。病院院長、事務長、高齢者保険課、包括支援センター、職員、利用者が参加している。入居者現状報告、介護度情報、コロナ対策、行事報告、健康管理について話し合った。町役場の方から熱中症対策として水分補給をしようとの意見も聞いた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談事があれば連絡して助言をいただき、協力をお願いしている。	窓口は施設長となっている。認定調査票、入退去者状況や運営推進会議の案内を行っている。月に1回は、役場に直接出向くことで、face to faceの関係が継続されている。町の情報が載っている広報誌を持ち帰ったら、利用者の方に喜ばれた。研修の案内、コロナ対策などの情報はFAXでやり取りをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを作成し、身体拘束委員会を立ち上げ、全職員に周知、苑内での勉強会を2ヶ月に一度開催して理解を深めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内研修やカンファレンスにて虐待についての話し合いを行い、職員間での日々の言動に気を付け虐待防止に努めている。職員は自身の健康状態に気をつけたり、ストレスを感じる事など、職場で話し合いを行い、平常心を保ち職務に取り組めるよう、フォローしたり努力をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内にも成年後見制度を利用されている入居者様もおり、職員も学ぶ機会が持て理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居時に本人様、家族様に書面にて説明を行い、十分に納得して頂いたうえで契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃から電話での連絡をとり、意見や要望を聞き、担当者会議時にも相談事や要望を聞き、運営に反映している。	窓越し面会や電話、手紙のやり取りも継続している。面会や担当者会議に来た際に、意見を確認し、1ヶ月に1回、担当者から家族への手紙を郵送して、2ヶ月に1回、愛寿苑通信を発行して施設の様子がわかるとの好評の意見を頂いている。果物が好きな利用者には、家族からイチジクの差し入れがあった。	写真や手紙のやりとりを増やしてみたいかがでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のカンファレンス等で職員の意見、業務における問題点を聞き、協議し、日々の支援に反映させている。	朝礼や申し送りノートを活用していて、定期的に10分間のミニカンファレンスも行い、利用者の様子、研修や委員会、コロナ対策についての話し合いができた。職員からの意見は、各ユニットリーダーがまとめ、施設長に声が届くようになっている。段取り表の記入を細かくすることで、職員の動きをより把握しやすくしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に会議を行い、管理者を通じて職員の勤務状況や実情の把握に努め、向上心を持って働ける環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な会議を開き、現状の把握や内部研修の実践、外部研修への参加、また、オンラインの研修にも参加できるよう職員のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前から町での多職種の会議にも参加している。現在はオンラインにて参加させていただき、サービスの質の向上に向けている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問し面談を行い、本人様、家族様、介護支援専門員、相談員からの情報を受け、面談をさせていただき、心身及び生活歴を把握している。本人様の思いや不安を傾聴し安心して生活が送れる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時にご家族の不安や思いなどを傾聴し、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談の結果を踏まえ、必要な支援を見極め、柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する一員として本人様のできる家事を日課に取り入れて一緒に行っている。入居者様から教わる姿勢も大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染対策中で面会制限中であるが、必要に応じて電話にて近況報告をしたり、窓越しやオンライン面会をして家族様と繋がりを持っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症対策で外出制限中であり今後の状況に応じ、オンラインでの面会も行っていく。また、ハガキや手紙の便りもあり大事にされている。	ガラス越し面会に来る家族もいて、顔が見れると安心するとの声を頂いた。他科への受診の際には、家族が連れて行くので会う機会がある。リビングの席が馴染みの場所となり、利用者同士で毎日会話が弾んでいる。職員が出勤したら、挨拶を交わし、帰る際には、「もう帰るん？明日は来るの？」と声を掛けられるくらい馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が共同で作業を行う事でのなじみの関係が築けるようにしている。また、自らコミュニケーションをとる事が難しい入居者様に対しては会話の工夫をしたり余暇活動に職員が間に入り関わりが持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても顔を見せていただいたり、連絡をして話ができるような関係作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりに対し、生活歴を把握してアセスメントを行い、本人様の希望に沿った支援を個別に実施している。	入居時に思いや意向を確認している。入居時に不安があった方に対しては、利用者の言葉を傾聴することで安心感が与えられている。同じことでも何回も繰り返し伝えることで、納得して頂いている。本人の思いを尊重して、体操をしたり、部屋で休んだり自分のペースで過ごすことが出来ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様や家族様から情報収集をして日々の生活に反映できるように努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り記録等で職員の情報共有を行い、心身の状態を把握している。毎日の朝礼でその日のリーダーが利用者様の体調変化、特変、医者からの指示等の報告を申し送りすることで職員は両ユニットの利用者に関する情報を把握・共有することで対応できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミニカンファレンスで職員の意見を聞き、家族様にも要望等を確認したうえで介護計画を作成できるよう努めている。	新規利用者は3ヶ月でプランの更新を行い、以降は半年もしくは1年で更新している。担当職員に気づいたことがあれば、ケアマネジャーにその場で報告している。夜勤の様子も職員間で共有していて、ケアプランに活かしている。食事が食べられなくなった方への介助方法や医療連携を行ったら、回復するに至った。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状況の変化等についてカルテや申し送りノートに記入し、職員間での情報を共有している。必要に応じて介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や家族様のニーズに沿って柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染症対策で制限はあるが、常日頃から地域の資源を把握しておき、今後状況を見ながら対応していく。現在は歯科と散髪の間接を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様及び家族様の希望を確認しているが、協力医療機関に変更することが多くなっている。定期受診の付き添いや特変があれば電話で指示をもらっている。	かかりつけ医は、入居時に母体の協力医に全員が転医している。ドクターとの関係も良好で、利用者は会うと笑顔になるくらい関係性が築けている。他科受診へは、基本家族が連れて行き、その際に意見交換ができています。歯科診療は、月1回の往診があり、治療が必要な場合には、家族が連れて行く。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師や病院の看護師の訪問時に入居者様の日々の健康状態について適切な指示をもらい、受診の調整をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が入院した際は必要な情報を医療機関に提供し、医療機関職員と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方を契約時に本人様・家族様に説明を行い、重度化した入居者様に対しては、家族様、主治医を交えて話をし今後のケアの方向性を決めている。	母体の病院が隣接しているため、ターミナルは施設では実施していない。入所時に、「重要事項説明書」にて同意を得ている。終末期に差し掛かった際には、家族やドクターと意見を交換している。直近では、ご飯の呑み込みが悪くなった方が入院したが、回復して今ではすっかり施設で元気に過ごしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成し、定期的な研修で新しい職員にも実践力が身につくように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を実施しているが、地震、水害等の災害訓練実施している。	年に2回、火災・地震訓練を昼夜想定で実施している。防災士から、消火器やスプリンクラーの使い方、通報の仕方を学び、利用者も一緒に避難することができた。本人の情報がわかる名札、防災頭巾の作成やカスコンロ、ガスボンベも購入し、備蓄は倉庫に、水、衛生用品を3日分保管するようにした。	もう一度、備蓄について見直し、計画してみたいかがでしょうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修を行い、人格の尊重やプライバシーを損ねない言葉かけや対応について話し合いをしている。	呼称は苗字に「さん」を付けて呼んでいる。接遇は新人研修や朝礼、10分間のカンファレンスにて触れている。利用者を尊重し傾聴することを大切にしている。衣類が汚れた際には、素早く片付け、他の利用者には気づかれない配慮をしながら誘導を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自分の思っていること、言いたいことを言えるような環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は決めているが入居者様の思いや意見を尊重し、個々のペースに合わせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望を聞き、衣類等の購入を家族様にお願いしたり、散髪は2ヶ月に一度理容師に来てもらって個々の好みで整えている。また、爪切りや髭剃り等対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人個人の状態に合わせて盛り付けのできる方、下膳や片付けができる方、それぞれの能力を活かして関わってもらえるようにしている。	食事は3食外注だが、ご飯とお味噌汁は施設で調理している。食事の雰囲気も穏やかで、職員は適度に声掛けを行い、見守り体制に努めていた。利用者からは「美味しい」ですの一言が聞け、満足度は高い。月1回のおやつ作りの日を設け、クリームソーダ風ゼリーとかき氷を作ったら喜んで頂けた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事や水分の摂取量を記録している。主治医とも連携し、食事形態の工夫、量の調整を行っている。摂取状況に応じて栄養補助食品、飲料の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前の口腔体操、毎食後口腔ケアを声かけや介助にて行い、清潔保持に努めている。また、毎月訪問歯科で口腔ケアの指導、義歯調整等を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認しながら、声かけ、見守りをして排泄の失敗やオムツの使用を減らしている。一人一人の排泄パターンを把握しトイレ誘導をしている。	トイレが4ヶ所設置されていて、居室からも行きやすくなっている。排泄チェック表と合わせて水分チェックも行っている。布パンツで過ごされている方が約半数おられる。ポータブルトイレを使用している人はおらず、全員がトイレで排泄することができている。夜間は安眠に考慮してオムツの方も数名おられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動により便秘改善に努め、必要に応じて受診し、主治医の指示を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時には本人様の承諾を得てから入浴に行かれている。拒否がある時は時間をずらすことや職員が交代して落ち着いて入浴ができるようにしている。	週2回以上の入浴機会を設けている。浴槽のお湯をかけ流しにしていることで、清潔な環境を維持している。入浴を拒否される方へは、「体重測りに行きましょう」など言葉をかけて誘導している。無理強いせず、人や日時を変えて声掛けが成果を生んでいる。ゆず湯の代わりとして、ケアマネジャの発案で、みかんの皮を干したものをお湯に浸けたら、大好評だった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠してもらえるように日中の活動や生活リズムを整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様個人の症状や服薬内容を職員が把握できるようにしている。服薬時には日付や名前を読んで再度確認して誤薬が無いようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割をしていただき達成したことへの感謝の声掛けをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対策の為、外出は制限中で苑内での散歩になっているが、映像や本等を観て今後の楽しみにしている。	隣接する病院のリハビリガーデンへの散歩は可能で、花見をしたり、季節の花や果物を楽しんだりしている。レクリエーション活動の後、廊下を3往復したり、歩行困難がある方へは、職員が補助をして屈伸や手足体操をしている。施設内での棒体操や、ラジオ体操など様々なレクリエーション活動を工夫して行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様が遠方であったり、成年後見人を利用されている方は少額事業所で預かり、必要な物があれば自由に購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月1回家族様への手紙で日頃の様子をお知らせしたり、作品を送付している。本人様の希望を聞き、本人様の携帯電話で連絡したり、苑の電話をかけたりし対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のホールにはソファを配置し、個々でゆったりとくつろげるよう配慮している。ホール内には季節に応じた創作活動として入居者様の作品を掲示している。	四季ごとに壁紙を変えて、季節折々を感じられるようにしている。利用者が作成した塗り絵や、折り紙のトンボ、コスモスの花を折ったものが堂々と飾られていた。ラジオ体操、座ってできる高齢者体操、タオル体操、棒体操などをリビングで行っている姿を評価員は目の当たりにした。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファでテレビを観たり話をしながら創作活動ができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたテーブル、机、家族様の写真等、馴染みのある物を居室に置いていただき、家庭的なイメージの中で過ごしてもらえるようにしている。また、居室でゆっくりとテレビを観られるように対応もしている。	備え付けはベッド、エアコン、クローゼット、洗面所。テレビ、本、足マッサージ器等を持ち込むことで、好きなことをして過ごすことができている。家族の写真や誕生日カード、相撲の結果を記入した表を飾っている部屋もあり、自分らしい居室となっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	苑内はバリアフリーであり混乱のない環境作りに努めている。個々の状態に応じて声かけを行い不安なく過ごせるように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				